様式第２号（その１）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｻｯﾎﾟﾛﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人札幌大学	
フリガナ 大学の名称	ｻｯﾎﾟﾛﾀﾞｲｶﾞｸ 札幌大学（Sapporo University）	
大学本部の位置	北海道札幌市豊平区西岡３条７丁目３番１号	
大学の目的	本学は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、学術の理論と応用とを研究・教授して、個性豊かな人材を育成し、地域社会の進展と産業の開発を基本に、人類の福祉と繁栄に貢献することを目的とする。	
新設学部等の目的	国際化時代における自国文化と異文化の問題、情報化社会における人と技術の問題、自然環境における人と自然との問題などに対する解決力を有する、心豊かな人材を育成することを目的とする。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
文化学部 （Faculty of cultural Studies） 文化学科 （Department of cultural Studies）	4	230	―	920	学士 （文化学）	平成19年４月 第１年次	北海道札幌市豊平区西岡３条７丁目３番１号

同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	平成19年４月、札幌大学文化学部日本語・日本文化学科（130）募集停止 平成19年４月、札幌大学文化学部比較文化学科（130）募集停止 これにより文化学部の入学定員は、260人から230人に減員（△30）

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実習	計	
文化学部文化学科	322科目	38科目	16科目	376科目	１２４単位

教員組織の概要

	学部等の名称	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員	
新設分	文化学部文化学科	14 (14)	9 (9)	5 (5)	人 ()	28 (28)	人 ()	51 (51)	既設学科から全員移行
新設分		() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	①専門兼任教員44人 ②共通兼任教員28人 ②を按分し①に加えると合計51人
新設分	計	14人 (14)	9人 (9)	5人 (5)	人 ()	28人 (28)	人 ()	51人 (51)	
既設分	経済学部経済学科	20 (20)	7 (7)	1 (1)	() ()	28 (28)	() ()	49 (49)	
既設分	外国語学部英語学科	6 (6)	5 (5)	1 (1)	() ()	12 (12)	() ()	30 (30)	
既設分	外国語学部ﾛｼｱ語学科	8 (8)	2 (2)	1 (1)	() ()	11 (11)	() ()	12 (12)	
既設分	経営学部経営学科	12 (12)	7 (7)	4 (4)	() ()	23 (23)	() ()	20 (20)	
既設分	経営学部ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	11 (11)	1 (1)	0 (0)	() ()	12 (12)	() ()	14 (14)	
既設分	法学部法学科	10 (10)	7 (7)	3 (3)	() ()	20 (20)	() ()	40 (40)	
既設分	法学部自治行政学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	() ()	10 (10)	() ()	5 (5)	
既設分		() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	
既設分		() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	
既設分	計	72人 (72)	31人 (31)	13人 (13)	人 ()	116人 (116)	人 ()	170人 (170)	
合計		86人 (86)	40人 (40)	18人 (18)	人 ()	144人 (144)	人 ()	221人 (221)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	札幌大学女子短期大学部と共同
	事務職員	８４人 (84)	５人 (5)	８９人 (89)	
	技術職員	()	()	()	
	図書館専門職員	６人 (6)	２０人 (20)	２６人 (26)	
	その他の職員	()	１０１人 (101)	１０１人 (101)	
	計	９０人 (90)	１２６人 (126)	２１６人 (216)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	札幌大学女子短期大学部と共用
	校舎敷地	0㎡	87,846.00㎡	0㎡	87,846.00㎡	
	運動場用地	㎡	86,195.48㎡	㎡	86,195.48㎡	
	小計	㎡	174,041.48㎡	㎡	174,041.48㎡	
	その他	㎡	31,002.05㎡	㎡	31,002.05㎡	
	合計	㎡	205,043.53㎡	㎡	205,043.53㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	札幌大学女子短期大学部と共用
	15,681.99㎡ (15,681.99㎡)	34,429.14㎡ (34,429.14㎡)	1,953㎡ (1,953㎡)	52,064.13㎡ (52,064.13㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	室	室	室	室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
		室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
		〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	( )	( )	( )	
	計	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	( )	( )	( )	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	㎡			

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	㎡		

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研費等については、札幌大学女子短期大学部と共同
経費の見積り	教員１人当り研究費等	525千円	525千円	図書購入費	20,000千円	20,000千円	20,000千円	
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,090千円	890千円	890千円	890千円	－千円	－千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等

既設大学等の状況	大学の名称	札幌大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍		北海道札幌市豊平区西岡３条７丁目３番１号	
	法学研究科法学専攻	2	10	－	20	修士(法学)	0.35	平成9年		
	経営学研究科経営学専攻	2	10	－	20	修士(経営学)	1.15	平成11年		
	外国語学研究科英語学専攻	2	5	－	10	修士(英語学)	0.40	平成12年		
	外国語学研究科ﾛｼｱ語学専攻	2	3	－	6	修士(ﾛｼｱ語学)	0.66	平成12年		
	経済学研究科地域経済政策専攻	2	10	－	20	修士(経済学)	0.30	平成13年		
	文化学研究科文化学専攻	2	10	－	20	修士(文化学)	1.25	平成13年		

大学の名称	札幌大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
経済学部経済学科	4	300	－	1,200	学士(経済学)	1.10	昭和42年	北海道札幌市豊平区西岡３条７丁目３番１号	
外国語学部英語学科	4	100	－	400	学士(英語)	1.21	昭和42年		
外国語学部ﾛｼｱ語学科	4	50	－	200	学士(ﾛｼｱ語)	0.82	昭和42年		
経営学部経営学科	4	250	－	〔20〕 1,020	学士(経営学)	1.05	昭和43年		〔〕内は平成15年度の期間付定員で内数
経営学部ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	100	－	400	学士(経営学)	0.91	平成9年		
法学部法学科	4	200	－	950	学士(法学)	1.06	平成元年		平成18年、入学定員250→200
法学部自治行政学科	4	100	－	400	学士(法学)	0.75	平成18年		
文化学部日本語・日本文化学科	4	130	－	520	学士(文化学)	1.11	平成9年		
文化学部比較文化学科	4	130	－	520	学士(文化学)	0.89	平成9年		

大学の名称	札幌大学女子短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
英文学科	2	60	－	120	短期大学士(英文学)	0.80	昭和43年	北海道札幌市豊平区西岡３条７丁目３番１号	
経営学科	2	60	－	120	短期大学士(経営学)	1.15	昭和57年		平成18年、女子短期大学部経営学科秘書専攻の学生募集停止により経営学科経営管理専攻を経営学科に再編

附属施設の概要	該当なし	

（注）
１　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置，研究科等の専攻に係る課程の変更又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合は，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，欄を省略すること。
２　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，欄を省略すること。
３　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，欄を省略すること。
３　空欄には，「－」又は「該当無し」と記入すること。

様式第２号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

文化学部文化学科

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	学部基幹科目		文化学総論	1	4			○			14	9	5			オムニバス
			プレゼミ	1	2				○		14	9	5			
			小計（2科目）	－	6				－		14	9	5			
	コース共通	言語系科目	初級英語	1・2・3・4		4		○								
			中級英語	1・2・3・4		4		○								
			応用英語Ⅰ	2・3・4		4		○								
			応用英語Ⅱ	2・3・4		4		○								
			ＣＡＬＬ英語実習Ⅰ	1・2・3・4		4				○						
			ＣＡＬＬ英語実習Ⅱ	1・2・3・4		4				○						
			入門朝鮮語	1・2・3・4		4		○								
			初級朝鮮語	1・2・3・4		4		○								
			入門中国語	1・2・3・4		4		○			1		1			
			初級中国語	1・2・3・4		4		○			1		1			
			入門イタリア語	1・2・3・4		4		○								
			初級イタリア語	1・2・3・4		4		○								
			入門インドネシア語	1・2・3・4		4		○								
			初級インドネシア語	1・2・3・4		4		○								
			入門アイヌ語	1・2・3・4		4		○				1				
			初級アイヌ語	1・2・3・4		4		○								
			中級朝鮮語	2・3・4		4		○								
			応用朝鮮語	2・3・4		4		○								
			中級中国語	2・3・4		4		○								
			応用中国語	2・3・4		4		○								
			中級イタリア語	2・3・4		4		○								
			応用イタリア語	2・3・4		4		○								
			英語演習	2・3・4		4			○		1					
			小計（23科目）	－		92			－		2	1	1			
		情報系科目	情報処理演習Ⅰ	1・2・3・4		2			○		1					
			情報処理演習Ⅱ	1・2・3・4		2			○		1					
			情報処理演習Ⅲ	1・2・3・4		2			○							
			情報処理演習Ⅳ	1・2・3・4		2			○							
			情報と文化	1・2・3・4		2		○			1					
			情報と技術	1・2・3・4		2		○			1					
			小計（6科目）	－		12			－		1					
		基礎論科目	言語基礎論Ⅰ	1		2		○			1					
			言語基礎論Ⅱ	1		2		○			1					
			日本文学基礎論Ⅰ	1		2		○								
			日本文学基礎論Ⅱ	1		2		○				1				
			日中文化交流基礎論	1		2		○					1			
			メディア基礎論Ⅰ	1		2		○			1					
			メディア基礎論Ⅱ	1		2		○			1	1				
			表現と文化	1		2		○			1					
			多文化コミュニケーション基礎論	1		2		○			4	1				オムニバス
			文化・ヒト・環境基礎論	1		2		○			1					
			考古学基礎論	1		2		○			1					
			歴史学基礎論	1		2		○				1				
			国際関係基礎論	1		2		○			1					
			地理学基礎論	1		2		○			1					
			文化人類学基礎論	1		2		○				1				
			スポーツ文化基礎論	1		2		○			1		3			オムニバス
			救急・応急処置演習	1		2			○		1		3			共同担当
			小計（17科目）	－		34			－		12	4	4			

様式第２号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

文化学部文化学科

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	日本語・日本文学コース	基礎科目	日本語表現論Ⅰ	2		2		○				1				
			日本語表現論Ⅱ	2		2		○				1				
			日本語概論Ⅰ	2		2		○				1				
			日本語概論Ⅱ	2		2		○				1				
			日本文学史Ⅰ	2		2		○								
			日本文学史Ⅱ	2		2		○								
			日本文学論Ⅰ	2		2		○				1				
			日本文学論Ⅱ	2		2		○				1				
			日本文学論Ⅲ	2		2		○								
			日本文学論Ⅳ	2		2		○								
			日中比較文学文化論	2		2		○			1					
			日中文化交流論	2		2		○					1			
			漢文学Ⅰ	2		2		○								
			漢文学Ⅱ	2		2		○								
			書道Ⅰ	2		2		○								
			書道Ⅱ	2		2		○								
			小計（16科目）	－		32			－		1	3	1			
		応用科目	日本語史Ⅰ	3・4		2		○				1				
			日本語史Ⅱ	3・4		2		○				1				
			日本語文法論Ⅰ	3・4		2		○			1					
			日本語文法論Ⅱ	3・4		2		○			1					
			日本語教授法Ⅰ	3・4		2		○								
			日本語教授法Ⅱ	3・4		2		○								
			日本文学特講Ⅰ	3・4		2		○				1				
			日本文学特講Ⅱ	3・4		2		○				1				
			日本文学特講Ⅲ	3・4		2		○				1				
			日本文学特講Ⅳ	3・4		2		○				1				
			日本文学特講Ⅴ	3・4		2		○								
			日本文学特講Ⅵ	3・4		2		○								
			日本文学特講Ⅶ	3・4		4		○					1			
			日中比較文学文化特講	3・4		2		○			1					
			日中文化交流特講Ⅰ	3・4		2		○					1			隔年開講
			日中文化交流特講Ⅱ	3・4		2		○					1			隔年開講
			日本語教授法Ⅲ	3・4		2		○								
			日本語教授法Ⅳ	3・4		2		○								
			日本語教育教材・教具論	3・4		2		○								
			小計（19科目）	－		40			－		2	3	2			
	表現とメディアコース	基礎科目	メディア論	2		2		○			1					
			ジャーナリズム論	2		2		○				1				
			インターネット文化論	2		2		○			1					
			放送メディア論	2		2		○				1				
			映像文化論	2		2		○				1				
			表象文化論Ⅰ	2		2		○			1					
			表象文化論Ⅱ	2		2		○			1					
			広告文化論	2		2		○								
			メディア表現演習Ⅰ	2		2			○		1					
			メディア表現演習Ⅱ	2		2			○		1					
			メディアアート演習Ⅰ	2		2			○							
			メディアアート演習Ⅱ	2		2			○							
			コンピュータミュージック演習Ⅰ	2		2			○							
			コンピュータミュージック演習Ⅱ	2		2			○							
			小計（14科目）	－		28			－		3	2				

様式第２号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

文化学部文化学科

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	表現とメディアコース	応用科目	ジャーナリズム特講	3・4		2		○				1				
			出版文化論Ⅰ	3・4		2		○			1					
			出版文化論Ⅱ	3・4		2		○			1					
			放送文化論	3・4		2		○				1				
			広告文化特講	3・4		2		○								
			映像文化特講	3・4		2		○								
			デザイン論	3・4		2		○			1					
			表象文化特講	3・4		2		○			1					
			メディア表現演習Ⅲ	3・4		2			○		1					
			ライティング演習	3・4		2			○			1				
			マルチメディア演習Ⅰ	3・4		2			○							
			マルチメディア演習Ⅱ	3・4		2			○							
			小計（12科目）	－		24		－			3	1				
	多文化コミュニケーションコース	基礎科目	言語文化論	2		2		○				1				
			比較宗教論Ⅰ	2		2		○			1					
			比較宗教論Ⅱ	2		2		○			1					
			異文化コミュニケーション論	2		2		○			1					
			比較思想論	2		2		○								
			文化・ヒト・環境論Ⅰ	2		2		○			1					
			文化・ヒト・環境論Ⅱ	2		2		○			1					
			世界文学論Ⅰ	2		2		○			1					
			世界文学論Ⅱ	2		2		○					1			
			文化表象論Ⅰ	2		2		○								
			文化表象論Ⅱ	2		2		○								
			比較文化論	2		2		○			1					
			小計（12科目）	－		24		－			4	1	1			
		応用科目	言語文化特講	3・4		2		○				1				
			異文化コミュニケーション特講	3・4		2		○			1					
			比較思想特講	3・4		2		○								
			文化記号論	3・4		2		○			1					
			文化表象論Ⅲ	3・4		2		○			1					
			比較文化特講	3・4		2		○			1					
			文化・ヒト・環境特講	3・4		2		○			1					
			世界文学特講	3・4		2		○			1					
			コミュニケーション演習	3・4		2			○			1				
			翻訳演習	3・4		2			○			1				
			芸術表象演習Ⅰ	3・4		2			○							
			芸術表象演習Ⅱ	3・4		2			○							
			創作演習Ⅰ	3・4		2			○		1					
			創作演習Ⅱ	3・4		2			○		1					
			ワールドニュース演習Ⅰ	3・4		2			○							
			ワールドニュース演習Ⅱ	3・4		2			○							
			小計（16科目）	－		32		－			4	1				

様式第２号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

文化学部文化学科

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	歴史文化コース	基礎科目	フィールドワーク論Ⅰ	2		2		○			1					
			フィールドワーク論Ⅱ	2		2		○			1					
			フィールドワーク論Ⅲ	2		2		○				1				
			文化財論Ⅰ	2		2		○			1					
			文化財論Ⅱ	2		2		○			1					
			考古学研究	2		2		○				1				
			外国史Ⅰ	2		2		○					1			
			外国史Ⅱ	2		2		○					1			
			日本史Ⅰ	2		2		○				1				
			日本史Ⅱ	2		2		○				1				
			国際関係論	2		2		○			1					
			自然地理学Ⅰ	2		2		○			1					
			自然地理学Ⅱ	2		2		○			1					
			人文地理学Ⅰ	2		2		○			1					
			人文地理学Ⅱ	2		2		○			1					
			地誌学Ⅰ	2		2		○								
			地誌学Ⅱ	2		2		○								
			文化人類学論	2		2		○				1				
			アイヌ文化論	2		2		○				1				
			日本社会文化史	2		2		○								
			小計（20科目）	－		40		－			4	4	1			
		応用科目	考古学特講Ⅰ	3・4		2		○			1					
			考古学特講Ⅱ	3・4		2		○				1				
			考古学特講Ⅲ	3・4		2		○								
			アジア現代史Ⅰ	3・4		2		○			1					
			アジア現代史Ⅱ	3・4		2		○			1					
			北方史	3・4		2		○				1				
			北海道近代史Ⅰ	3・4		2		○								
			北海道近代史Ⅱ	3・4		2		○								
			北海道自然論	3・4		2		○			1					
			北海道地域文化論	3・4		2		○			1					
			文化人類学特講	3・4		2		○				1				
			アイヌ文化特講	3・4		2		○				1				
			北海道生活文化論Ⅰ	3・4		2		○								
			北海道生活文化論Ⅱ	3・4		2		○								
			小計（14科目）	－		28		－			4	4				
	スポーツ文化コース	基礎科目	スポーツ文化論	2		2		○					3			オムニバス
			スポーツ史論	2		2		○					1			
			日本武芸文化論	2		2		○					1			
			スポーツ教育学論	2		2		○			1					
			スポーツマネージメント論	2		2		○					1			
			スポーツ社会学	2		2		○								
			スポーツ哲学	2		2		○								
			スポーツ人類学	2		2		○								
			スポーツ心理学	2		2		○								
			日本武芸文化演習基礎Ⅰ	2		2			○				1			
			日本武芸文化演習基礎Ⅱ	2		2			○				1			
			小計（11科目）	－		22		－			1		3			

様式第２号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

文化学部文化学科

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	スポーツ文化コース	応用科目	スポーツ文化特講	3・4		2		○					3			オムニバス
			スポーツ史特講	3・4		2		○					1			
			日本武芸文化特講	3・4		2		○					1			
			スポーツ教育学特講	3・4		2		○			1					
			スポーツマネージメント特講	3・4		2		○					1			
			レジャー・レクリエーション論	3・4		2		○								
			ニュースポーツ論	3・4		2		○					1			
			東洋身体文化論	3・4		2		○			1					
			日本武芸文化演習応用Ⅰ	3・4		2			○				1			
			日本武芸文化演習応用Ⅱ	3・4		2			○				1			
			小計（10科目）	－		20			－		2		3			
	ゼミナール科目		基礎ゼミナールⅠ	2	2				○		14	9	5			
			基礎ゼミナールⅡ	2	2				○		14	9	5			
			応用ゼミナールⅠ	3	2				○		14	9	5			
			応用ゼミナールⅡ	3	2				○		14	9	5			
			卒業研究Ⅰ	4	4				○		14	9	5			
			卒業研究Ⅱ	4		4			○		14	9	5			
			小計（6科目）	－	12	4			－		14	9	5			
	学外研修		学外研修Ａ	2・3・4		4				○	14	9	5			
			学外研修Ｂ	2・3・4		4				○	14	9	5			
			学外研修Ｃ	2・3・4		12				○	14	9	5			
			学外研修Ｄ	2・3・4		24				○	14	9	5			
			小計（4科目）	－		44			－		14	9	5			
	関連学科目		留学生用入門英語Ⅰ	1		2		○								
			留学生用入門英語Ⅱ	1		2		○								
			法学概論Ⅰ	1		2		○								
			法学概論Ⅱ	1		2		○								
			憲法	2		2		○								
			経済原論	2		2		○								
			衛生学及び公衆衛生学	3・4		2		○								
			生理学(運動生理学を含む)	3・4		2		○								
			体力測定・評価法	3・4		2		○			1					
			学校保健	3・4		2		○			1					
			運動学（運動方法学を含む）	3・4		2		○								
			サッカー	2・3・4		1				○			1			
			ソフトボール	2・3・4		1				○			1			
			テニス	2・3・4		1				○						
			バスケットボール	2・3・4		1				○						
			バドミントン	2・3・4		1				○			1			
			体操・器械体操	2・3・4		1				○						
			陸上競技	2・3・4		1				○						
			水泳	2・3・4		1				○	1					
			武道	2・3・4		1				○			1			
			サマー・スポーツ演習	3・4		2			○		1		3			共同・隔年
			ウィンター・スポーツ演習	3・4		2			○		1		3			共同・隔年
			日本生活文化史Ⅰ	3・4		2		○				1				
			日本生活文化史Ⅱ	3・4		2		○				1				
			北海道地誌論Ⅰ	3・4		2		○			1					
			北海道地誌論Ⅱ	3・4		2		○			1					
			小計（26科目）	－		43			－		3		3			

様式第２号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

文化学部文化学科

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通科目	基礎科目	<表現力養成科目>													
		入門演習	1	2				○		14	9	5			
		日本語表現法	1		2		○								
		<外国語科目>													
		ドイツ語初級Ⅰ	2・3・4		2		○								
		ドイツ語初級Ⅱ	2・3・4		2		○								
		フランス語初級Ⅰ	2・3・4		2		○								
		フランス語初級Ⅱ	2・3・4		2		○								
		ロシア語初級Ⅰ	2・3・4		2		○								
		ロシア語初級Ⅱ	2・3・4		2		○								
		ドイツ語入門Ⅰ－A	1・2・3・4		2		○								
		ドイツ語入門Ⅰ－B	1・2・3・4		2		○								
		ドイツ語入門Ⅱ－A	1・2・3・4		2		○								
		ドイツ語入門Ⅱ－B	1・2・3・4		2		○								
		ドイツ語中級Ⅰ	2・3・4		2		○								
		ドイツ語中級Ⅱ	2・3・4		2		○								
		フランス語入門Ⅰ－A	1・2・3・4		2		○								
		フランス語入門Ⅰ－B	1・2・3・4		2		○								
		フランス語入門Ⅱ－A	1・2・3・4		2		○								
		フランス語入門Ⅱ－B	1・2・3・4		2		○								
		フランス語中級Ⅰ	2・3・4		2		○								
		フランス語中級Ⅱ	2・3・4		2		○								
		中国語中級Ⅰ	2・3・4		2		○								
		中国語中級Ⅱ	2・3・4		2		○								
		ロシア語入門Ⅰ－A	1・2・3・4		2		○								
		ロシア語入門Ⅰ－B	1・2・3・4		2		○								
		ロシア語入門Ⅱ－A	1・2・3・4		2		○								
		ロシア語入門Ⅱ－B	1・2・3・4		2		○								
		ロシア語中級Ⅰ	2・3・4		2		○								
		ロシア語中級Ⅱ	2・3・4		2		○								
		ハングル語中級Ⅰ	2・3・4		2		○								
		ハングル語中級Ⅱ	2・3・4		2		○								
		日本語初級Ⅰ	1・2・3・4		4		○								
		日本語初級Ⅱ	1・2・3・4		4		○								
		日本語中級Ⅰ	1		2		○			1					
		日本語中級Ⅱ	1		2		○			1					
		日本語Ⅰ	1		4		○								
		日本語Ⅱ	1		4		○								
		日本語応用Ⅰ	1・2・3・4		2		○								
		日本語応用Ⅱ	1・2・3・4		2		○								
		<情報科目>													
		情報リテラシー基礎	1		2		○								
		情報リテラシー応用	1		2		○								
		<体育科目>													
		体育実技	1・2・3・4		1				○	1		3			
		小計（41科目）	－	2	87		－			14	9	5			

様式第２号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

文化学部文化学科

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通科目	教養科目	＜Ⅰ類＞　（世界とわれわれ）													
		【国際社会と現代】													
		異文化間交流論	1・2・3・4		2		○			1					
		企業経営問題の最先端	1・2・3・4		2		○								
		現代社会と企業経営	1・2・3・4		2		○								
		国際交渉とミディエーション	1・2・3・4		2		○			1					
		国際社会と法	1・2・3・4		2		○								
		国際紛争と国際関係	1・2・3・4		2		○								
		領土問題と国際関係	1・2・3・4		2		○								
		【アジアと日本】													
		アジア経済入門	1・2・3・4		2		○								
		アジア社会入門	1・2・3・4		2		○								
		現代のアジア経済	1・2・3・4		2		○								
		現代のアジア社会	1・2・3・4		2		○								
		中国文化論	1・2・3・4		2		○								
		日韓関係の歴史	1・2・3・4		2		○			1					
		日中関係論	1・2・3・4		2		○								
		ロシア社会論	1・2・3・4		2		○								
		ロシア文化論	1・2・3・4		2		○								
		【欧米の社会と文化】													
		アメリカ政治外交論	1・2・3・4		2		○								
		近世・近代の欧州	1・2・3・4		2		○								
		現代アメリカと世界	1・2・3・4		2		○								
		現代アメリカの経済と社会	1・2・3・4		2		○								
		現代の国際政治	1・2・3・4		2		○								
		国際政治学	1・2・3・4		2		○								
		西欧庶民生活の原像	1・2・3・4		2		○								
		西洋近世近代史	1・2・3・4		2		○								
		世界現代経済史	1・2・3・4		2		○								
		ヨーロッパ文明史	1・2・3・4		2		○								
		＜Ⅱ類＞　（現代社会と人間）													
		【社会と文化】													
		考古学への誘い	1・2・3・4		2		○				1				
		社会学入門	1・2・3・4		2		○								
		社会保障入門	1・2・3・4		2		○								
		生活と文化	1・2・3・4		2		○								
		生産と交換の歴史	1・2・3・4		2		○								
		大企業の世紀	1・2・3・4		2		○								
		地域と文化	1・2・3・4		2		○			1					
		歴史学概論	1・2・3・4		2		○								
		歴史と現代	1・2・3・4		2		○								

様式第２号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

文化学部文化学科

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通科目	教養科目	【経済と法】													
		現代社会と経済	1・2・3・4		2		○								
		現代社会と政治	1・2・3・4		2		○								
		現代社会と法Ⅰ	1・2・3・4		2		○								
		現代社会と法Ⅱ	1・2・3・4		2		○								
		政治学の基礎	1・2・3・4		2		○								
		法の基礎Ⅰ（憲法のしくみ）	1・2・3・4		2		○								
		法の基礎Ⅱ	1・2・3・4		2		○								
		法の基礎Ⅲ	1・2・3・4		2		○								
		法の基礎Ⅳ	1・2・3・4		2		○								
		【北海道と地域社会】													
		アイヌの歴史と社会	1・2・3・4		2		○				1				
		社会起業家論	1・2・3・4		2		○								
		先史学と北海道	1・2・3・4		2		○			1					
		北海道産業論	1・2・3・4		2		○								
		北海道の近世	1・2・3・4		2		○								
		<Ⅲ類>　（自然理解と情報）													
		【自然認識と科学】													
		宇宙物理学	1・2・3・4		2		○								
		宇宙論	1・2・3・4		2		○								
		解析基礎	1・2・3・4		2		○								
		科学技術論	1・2・3・4		2		○								
		科学史入門	1・2・3・4		2		○								
		自然観と哲学	1・2・3・4		2		○								
		数理統計学	1・2・3・4		2		○								
		相対性理論	1・2・3・4		2		○								
		代数基礎	1・2・3・4		2		○								
		天文学入門	1・2・3・4		2		○								
		統計学基礎	1・2・3・4		2		○								
		量子力学	1・2・3・4		2		○								
		論理学入門	1・2・3・4		2		○								
		【環境と人間】													
		環境生態学	1・2・3・4		2		○								
		環境の変遷と人類	1・2・3・4		2		○			1					
		環境倫理とはなにか	1・2・3・4		2		○								
		健康論	1・2・3・4		2		○					1			
		自然環境論	1・2・3・4		2		○								
		自然人類学	1・2・3・4		2		○								
		自然保護論	1・2・3・4		2		○								
		身体論	1・2・3・4		2		○					1			
		地球環境の科学	1・2・3・4		2		○								
		動物の行動	1・2・3・4		2		○								
		動物の社会	1・2・3・4		2		○								
		文化人類学	1・2・3・4		2		○								
		【情報の世界】													
		社会と情報	1・2・3・4		2		○								
		情報技術論	1・2・3・4		2		○								
		情報デザイン論	1・2・3・4		2		○								
		情報の理論	1・2・3・4		2		○								
		情報文化論	1・2・3・4		2		○								

様式第２号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

文化学部文化学科

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通科目	教養科目	<Ⅳ類>　（人間と表現）													
		【心と思想】													
		近代哲学入門	1・2・3・4		2		○								
		言語哲学入門	1・2・3・4		2		○								
		現代思想入門	1・2・3・4		2		○								
		現代哲学入門	1・2・3・4		2		○								
		社会倫理学	1・2・3・4		2		○								
		動機づけと感情の心理学	1・2・3・4		2		○								
		人間行動の心理学	1・2・3・4		2		○								
		人間の価値	1・2・3・4		2		○								
		人間の本質	1・2・3・4		2		○								
		臨床哲学	1・2・3・4		2		○								
		【文学と言語】													
		思想と文学の間	1・2・3・4		2		○								
		旅と文学	1・2・3・4		2		○								
		日本語論	1・2・3・4		2		○				1				
		日本の文学	1・2・3・4		2		○								
		文学と現代社会	1・2・3・4		2		○								
		文学とジェンダー	1・2・3・4		2		○								
		Japanese Literature in Translation	1・2・3・4		2		○					1			
		【芸術と表現】													
		音楽による想像性	1・2・3・4		2		○								
		音楽の構造	1・2・3・4		2		○								
		楽器による創造性	1・2・3・4		2		○								
		芸術論	1・2・3・4		2		○								
		国際性のための音楽通論	1・2・3・4		2		○								
		神話と芸術	1・2・3・4		2		○								
		西洋美術史	1・2・3・4		2		○								
		小計（103科目）	－		206		－			4	3	3			
	キャリア科目	職業と進路	1		2		○								
		キャリアアップ基礎	2		2		○								
		キャリアアップ応用	3		2		○								
		職業と社会	1		2		○								
		小計（4科目）	－		8		－								
		合計（376科目）	－	20	820		－			14	9	5			

学位又は称号	学士（文化学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
下記の９０単位以上を含む１２４単位以上を修得する。修業年限：４年 ・学部基幹科目：６単位、言語系科目：８単位以上、情報系科目：４単位以上、基礎論科目：８単位以上、共通科目：「入門演習」を含む１２単位以上、コース別基礎科目：２０単位以上、コース別応用科目：２０単位以上、ゼミナール科目：「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」「応用ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ」を含む１２単位以上	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（注）

１　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科を設置する又は大学における通信教育を開設する届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示

２　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

３　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

４　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

ア　設置の趣旨及び必要性

（ａ）教育研究上の理念、目的

文化学部は、「共生と調和」という教育理念に基づき、国際化時代における自国文化と異文化の問題、情報化社会における人と技術の問題、自然環境における人と自然との問題などに対する解決力を有する、心豊かな人材を育成することを目標としている。こうした方針のもと、設置以来「日本語・日本文化学科」「比較文化学科」の二学科体制による教育を行ってきた。これは主として、「日本語・日本文化学科」においては、自国の文化内に視点を定め、異文化へのまなざしを含みつつも内側から自文化を学ぶことに重心を置く一方、「比較文化学科」においては、種々多様な異文化の側に視点を定めることで、外側から観た自文化を発見することに重心を置くという考えに基づいた学科構成であった。当然ながら、両学科は互いに完全に無関係のものではなく、有機的に結びあい「文化学」というひとつの領域を構成するという理念のもと、実際にカリキュラムの多くを共有するというかたちで教育を進めてきた。

その過程において、カリキュラム間の連携性を高め、より実効的な教育プログラムを実施するためには、設置当初に想定した以上に両学科間の壁を低くする必要が実感されてきた。この必要性に対し、これまでは他学科の履修可能単位数上限を引き上げるなどの方策で対応してきたが、より徹底的に柔軟で幅広い教育を実現するため、二学科を一学科に統合するという抜本的な改革案が提出された。

一方で、統合により選択の幅の広い教育を行うことは、ひとつの領域に集中した体系的・系統立った履修法が見えにくくなるという危険を伴う。文化学という広い領域の中から、学部で何を学ぶことが出来るのか、それぞれの分野でどのような科目が中心となり、それらの科目間にどのような関連性があるのか、こうしたポイントを学生に対して明確に示すため、すでに文化学部では平成１６年度より「ユニット」制度を導入し、いくつかの中心となる学問領域と、その関連科目を明示することで、学生の履修・学修の指針を示すという工夫を行ってきた。一学科への統合に際しては、この「ユニット」制度を基礎により制度的にも整備された「コース」制度へと移行することにより、中心的な学問分野を明確化し、学生に対する学修の指針ともすることを目指している。

具体的なコースとしては、従来の「日本語・日本文化学科」の中心となる部分を引き継ぎ、また国語科教職課程関連科目を配置した「日本語・日本文学コース」、これまでも文化学部の特徴であった現代メディアに関する専門性と、学生からのニーズの特に高い表現に関するカリキュラムを相関させた「表現とメディアコース」、これも文化学部の特徴である、海外の多様な地域の協定校の存在などを活かし、異文化交流に関する分野に中心を置く「多文化コミュニケーションコース」、北海道に位置する大学として、北方の地域文化、歴史などを中心に科目を構成し、社会科教職課程関連科目を配置した「歴史文化コース」、今後の少子高齢化時代におけるスポーツの果たす役割を重視し、社会的ニーズに応えることの出来る科目群に、保健・体育教職課程関連科目を配置した「スポーツ文化コース」の５コー

スを置く。各コースの概要は以下の通りである。

①日本語・日本文学コース

日本語・日本文学コースは、諸言語の中の一つとしての日本語について史的変遷を加味しながらその特性を学ぶことを主軸として、日本語を表現手段とする古典から現代に至る日本文学を理論的に学ぶ。また本コースは、日本語・日本文学へ大きな影響を与えた中国文化を視野に入れ、日中間の文化交流について学ぶ点を特色としている。

②表現とメディアコース

表現とメディアコースは、現代の社会や文化に大きな力を及ぼしている出版や新聞、放送や通信（インターネット）などの諸メディアについて学び、同時にアートを含む人間の表現活動について学ぶ。このために表現とメディアコースでは、過去から現在に至るマス・コミュニケーションやジャーナリズムの基本を学ぶ科目、日々変化するインターネット社会についての視座を確かめる科目、および芸能や音楽など身体表現や造形表現に関する基礎的な科目を用意している。本コースの特色は、少人数で行う実践的な演習とメディア理論を組み合わせた点にある。メディア表現演習、メディアアート演習、ライティング演習などで諸技術を身につけながら、併せてコミュニケーションの諸理論を学んでいく。

③多文化コミュニケーションコース

多文化コミュニケーションは、日本文化における多文化的な要素の理解と再検討を出発点にしながら、多文化主義そのもの（考え方、生活様式、倫理的な側面、コミュニケーションのあり方など）に焦点をあて、多様化する社会文化を学ぶ。また、異文化を理解するために必要な解釈力、コミュニケーション力および感性を養う。本コースは、国際経験豊かな教授陣のもとで、多文化主義の理論や分析方法を学び、ならびに多文化理解の手段として言語の運用力を身につけ、それらを実践的な演習で多文化共生の諸課題に取り組みながら、問題解決のための想像力を育成する。

④歴史文化コース

歴史文化コースでは、「考古学」「日本史」「アジア現代史」「地理学」「文化人類学論」などの人文科学諸分野の方法論を総合的に学んでいく。コースの特色は、アイヌ文化を含む北方・北海道地域の歴史文化に焦点を当て、「北」に生きる人々の知恵や生活文化を考えることにある。さらにこのような地域研究を基礎にすえつつ、広く世界の地理・歴史をも視野に入れた人類の歴史・文化遺産の重要性をフィールドワークを取り入れて体得し、後世に伝えていく人材を養成したい。

⑤スポーツ文化コース

スポーツ文化のグローバル化と伝統性を捉えるため、スポーツ史・日本武芸文化論・スポーツ教育・スポーツマネージメントを柱とした「スポーツ文化学」の構築をめざす。スポーツ教育の分野において、理論と実践の両面から展開し、国際社会や地域社会で活躍できる「知と力」を身につける。教育活動は学内にとどまらず、学外の教育機関や体育・スポーツ・健康づくり関連機関・施設などとも提携をはかり積極的に展開する。これによって学外の豊かな教育資源を有効に活用すると同時に、地域社会に対しても、スポーツ文化学の角度から貢献していく。

本コースの新しい試みの一つは、日本における伝統的なスポーツ文化である「日本武芸」を扱うことである。日本武芸に関する講義とゼミナールでまず武芸理論を習い、さらに日本武芸文化演習では「目録」と段位取得をして実践力を修める。また同コースのスポーツ史関連科目や他コース科目の「日本史」「日本社会文化史」「文化人類学論」などと補完しあう形で、日本文化への興味を広げていく。

(b) どのような人材を育成するのか

文化学部では世界を構成する多様な「文化」を学ぶと同時に、問題解決の方法としての「文化学」の形成をも目指す。つまり単なる知識としての「文化」を積み上げるのではなく、新しい文化を構想する力や文化を学問的にコントロールし、導いていくような能力を修得させる。この「文化学」の力は、企業や官庁や地域における社会的な活動、特に企画立案や批評鑑賞、教育研究などの分野において役立つ「実学」を形成する。社会組織のあり方や職業・仕事が変化し多様化する時代に、文化学こそが有効な学問的「汎用性」を備えていると考える。

文化学部文化学科の目指す人物像は「自他の歴史・文化を深く理解し、世界とのつながりを強く意識できる、国際感覚あふれたもの」、「自分を取り巻く世界の多様性を旺盛な知的探究心を持って調査分析し、自らの柔軟な思考力や感性に基づいて地域や社会に貢献できるもの」である。

文化学科の五つのコースの具体的な人材育成目標は以下の通りである。

①日本語・日本文学コース

日本文化を学際的に学び、多様化する文化形態や現象を読み解く能力と外国人の日本語や日本文化に対する関心に対応できる能力を有する人材の養成を目指す。

卒業後の進路としては、一般企業の他、中学校、高等学校の国語科教員や外国人への日本語教育を専門とする日本語教師として活躍する場が期待される。

②表現とメディアコース

メディア・リテラシーの涵養、時代や社会への批評精神を培い、自ら表現できる人材の養成を目指す。卒業後の期待される進路としては、企業や公官庁での営業や広報担当・企

画、広告の営業や制作、印刷営業や出版編集、旅行業務、新聞・放送記者などが挙げられる。

③多文化コミュニケーションコース

外国語に精通するだけでなく、人文科学の教養と思考法、高度な分析能力とコミュニケーション力を育成する。それらのスキルを用いることで、国際的な視点から多様化し情報化した社会環境や異文化を構造的に理解し、国際社会で活動できるコミュニケーション能力を備えた人材を養成する。卒業後は、一般企業や公官庁、国際協力機関、非営利団体であるＮＰＯやＮＧＯなどの海外事業担当者、外資系企業の社員、ジャーナリスト、ソフト開発担当者、メディアコーディネーター、外国人への日本語教師が期待できる。

④歴史文化コース

人間の営みを「歴史」と「文化」をキイワードに多角的な分野から考察し、フィールドワークや資料読解を通じて、社会に開かれた実践的な知力と行動力を育成する。それらをとおして激動する現代社会および、未来を生き抜く力を身につけた学生を育む。

卒業後の期待される進路としては、総合的な職種である一般企業の他、専門的な知識を活かした、社会科教員、博物館学芸員、文化財担当職員、社会教育主事などの教職や公務員などが挙げられる。

⑤スポーツ文化コース

日本文化を鳥瞰でき、かつ日本の武芸やスポーツ文化に精通した人材を養成する。人文・社会科学の学問領域からアプローチし、学校教育やスポーツ関連施設・企業で活躍できるよう理論と実践の両面から教育する。スポーツ文化の理論と実践力の両面を備えることで、地域社会や国際舞台での活躍が期待される。卒業後の進路は、保健体育教員、スポーツ機関・施設職員、アウトドア・観光ビジネス関係、サービス業、コーチ・指導員、メディア関係などが想定される。

イ　文化学部文化学科の特色

学部の設置趣旨をふまえ、文化学科では、学問の専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法の修得や、境界領域に位置する問題群に対応する知の技法の獲得により、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実社会を公正に理解する力を涵養することを目標とする。こうした問題解決型の「文化学」の形成こそが「総合的教養教育」の実質であるという立場から、コース制に基づく学科カリキュラムを設定した。この学科カリキュラムにおいては、コース制というかたちで複数の教育プログラムをその柱として設け、効果的な学修をはかること、さらに主専攻および副専攻の同時履修というかたちで、多様な組み合わせからなる幅広い学修を可能にすることを、もっとも重要な特色とする。

それぞれのコースは異なる専門の集合によって領域を形成しているが、学修者は領域に関する学修を学年ごとに段階的に深めるように設計されている。主専攻コースは「日本語・日本文学コース」「表現とメディアコース」「多文化コミュニケーションコース」「歴史文化コース」「スポーツ文化コース」の 5 領域から構成される。１年次においては、まず「基礎課程科目」を学部内の基礎教養教育のための科目として全員共通に履修し、2 年次以降の「専門課程科目」をコース別の科目として基礎から応用へと段階的に学修をすすめることで、領域における専攻を究め、そのプロセスにおいて調査力、思弁力、企画力などの総合的な問題解決に必要な力を育成する。

また、グローバル化の進展により、大学には、学際的・総合的視野に立って自ら課題を設定し、総合的な思考・判断によって問題解決の能力と幅広く深い教養を有する人材の育成が求められている。文化学部文化学科では、主専攻コースに合わせて副専攻コースの履修も可能なようにカリキュラムを設計することで、学問的な関心の多様化している学生の要望に応え、これによって学際的・総合的に学修、幅広い知識や知的技法、複眼的思考の体得を可能とする。副専攻としては主専攻で所属する以外のコースが選択可能となるが、副専攻コースには主専攻と同様の領域からなる５コースに加え、主専攻 5 コースの科目を有機的に組み合わせた学科横断的コースである「比較文化コース」「東アジア文化コース」を置くことで計７コースとし、学生の選択肢をより多彩にしている。

ウ　学部、学科等の名称及び学位の名称

文化学部は、「共生と調和」という教育理念に基づき、国際化時代における自国文化と異文化の問題、情報化社会における人と技術の問題、自然環境における人と自然との問題などに対する解決力を有する、心豊かな人材を育成することを目標としている。この目標に沿って、北の大地札幌から、莫大な人類の営為である文化に対して、ひろく学び、深く考え、誠実で個性豊かに物事を遂行することのできる人材を世界に向けて発信する拠点を目指すこととする。

以上を踏まえ、学部学科及び学位の呼称を次のとおりとする。

「文化学部・文化学科」

（The Department of Cultural Studies at the Faculty of Cultural Studies）

「学士（文化学）」

（Bachelor of Arts in Cultural Studies）

エ　教育課程の編成の考え方及び特色

従来の二学科制から一学科複数コース制への再編にあたり、最大の特色となるのは、多様化する学生のニーズに対応し、選択の幅のある多様なコース（主専攻５コース、副専攻７コース）を提供し、必要要件を満たせば、主専攻および副専攻の複数コースを修了認定可能としたことである。

この教育プログラムを実現するための科目群は、１年次生から履修する学部共通の基礎課程と、２年次以降に配当されたコース別の専門課程に大別して編成されている。

文化学部文化学科に入学した学生は、１年次には学部内で共通化された基礎課程の科目を履修し、２年次以降専門課程の学修へ進むための基礎力を身につけると同時に、授業を通じ文化学部の多様な教育領域に触れることで、２年次のコース選択のための準備を行う。このため、１年次には言語系、情報系科目および「プレゼミ」などの基礎能力養成のための科目と、全教員がオムニバス形式で担当する「文化学総論」や、多様な教員が各コースの専門領域へとつながる入門的な授業を行う基礎論科目など、文化学部の幅広い専門性を紹介する役割を果たす科目を中心とした編成となっている。このうち、とくに短期間での集中的な展開により学習効果を高めることの必要な言語系科目、あるいは早期に学部の全容を学生が知るために１年次春学期での展開が必要な「文化学総論」などは、４単位週２回１学期完結の展開方法をとる。一方、基礎論科目は２単位週１回１学期完結とし、多くの学部教員による多様な授業をバランス良く用意することで、幅広い教養教育を実現すると同時に、コース制の選択に向けた判断材料を提供し、学生の適性・ニーズに合ったコースの選択へと誘導する役を担う。

２年次以降は各コースに分かれ、各コース内におかれた専門課程の科目を中心に、必要に応じて他コースの専門課程科目も交えた履修を行うことになる。主専攻コースの修了認定要件を満たしてさえいれば、他コースの授業も自由に履修可能であり、これにより副専攻コースの履修が実現される。主専攻コースの修了認定要件はコース毎に異なるが、概ねコース専門科目４０単位程度を目安とすることで、他コースの科目を履修する余地を大きく取り、副専攻コースの履修を容易にするよう配慮を行っている。

こうした副専攻制度を含め、学生に多様な可能性を提供するカリキュラムを運用するためには、学生の興味や志望に応じた柔軟性のある履修を保障することが不可欠である。このため、各コースの専門課程科目は、２単位１学期完結型の科目を基本とすることで、複数のコースの科目を少しずつ幅広く履修することも、興味を持った特定のコースの科目を集中的に学ぶことも、学生のニーズ次第で選択可能な高度な柔軟性を持ったものとしている。こうして１学期単位での多様な学修の完結を可能とすることは、他方で各種の留学、研修プログラム、ボランティア活動などの学外学修に集中することのできる機会を提供することになり、より実地的で大学の枠を越えた学修を奨励する効果も期待される。また同時に、春学期・秋学期を問わず同等の学修機会を提供することにもなるため、海外からの留学生の受け入れや、１学期の休学者、さらには九月卒業に対してもスムーズな対応が可能となる。

以上の１年次から４年次にわたる学修の全体において、コースの選択などを含め、学生に対するきめ細かく段階的な指導を行うため、４年間を通じてゼミ形式の授業を必修化し、担当教員が常時学生と接し、責任を持った指導を行える体制を整えた。

以下により詳細な科目編成の内容と位置づけを記す。

学部共通の基礎課程は、下記の科目系から構成される。

1.学部基幹科目（「文化学総論」「プレゼミ」計６単位必修）

2.言語系科目（８単位以上を選択必修）

3.情報系科目（４単位以上を選択必修）

4.基礎論科目（８単位以上を選択必修）

5.共通科目（「入門演習」を含む１２単位以上を選択必修）　＊全学部共通

1.学部基幹科目のうち、「文化学総論」（１年次春学期）は、学部全教員がオムニバス形式で担当し、学部の概要の紹介とともに、各自の専門、所属コースとの関連を示し、２年次以降のゼミ・コース選択の基礎とする。「プレゼミ」（１年次秋学期）は、各学部教員が担当する少人数のクラス（～10 人程度）に分けて実施し、資料読解、発表やレポート作成など、４年間の学修に必要な基礎的技法の修得を行う。同時にゼミ紹介の回を複数設定し、ここでも２年次以降のゼミ・コース選択への誘導を行う。

2.言語系科目および 3.情報系科目は、学部共通の基礎的能力修得のための科目と位置づけ、１年次に配当すると同時に、より進んだ学修を希望する学生のために、２年次以降にも段階的に上級へと進む内容の科目を配当する。

4.基礎論科目は、学部内の基礎教養教育のための科目と位置づけ、全１年次生を対象とした内容で行う。履修を通じて多様な専門領域の科目に幅広く触れることにより、学生の目的意識を高めると同時に、２年次以降の各コースにおける専門課程との関連を併せ持たせることで、コース選択の参考になるよう配慮する。

5.共通科目は、学内の全学部共通の科目であり、より教養教育的な内容のものを中心とする。このうち「入門演習」（１年次春学期）は全員が履修し、各学部教員が担当する少人数のクラスに分けて実施するものであり、秋学期の基幹科目「プレゼミ」と連動した内容で１年次生に対する導入教育を行う。

２年次以降のコース別専門課程では、学生の希望進路、学習ニーズに合わせたより個別的な教育を行う。コース別の専門課程は、下記の科目系から構成される。（以下は全コース共通の概要である。各コースの個別的概要、主専攻／副専攻認定要件の詳細については、「カ教育方法、履修指導方法及び卒業要件」の項を参照のこと。）

1.基礎科目（選択必修）

2.応用科目（選択必修）

3.ゼミナール科目（必修）

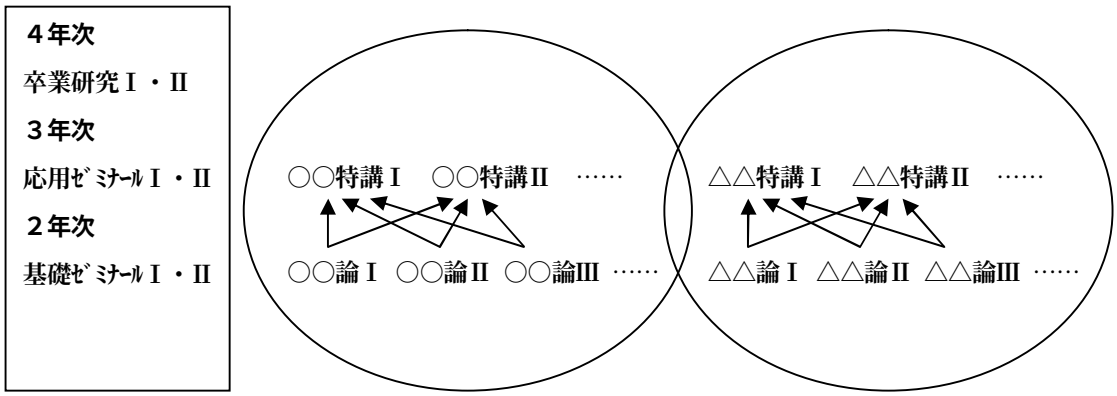
4.学外研修（選択または選択必修）

1.基礎科目は、各コースにおける基礎的あるいは概論的内容の科目からなり、２年次に配当する。科目名に「Ⅰ・Ⅱ」などの数字がつく場合、数字は内容の連続性・段階制を示すものではなく、同一の分野において同じ基礎レベルにある完結した科目を複数設置していることを示す。こうした同一レベルの完結した科目を複数の学期に配置することで、より多様で柔軟な履修を可能にする。

2.応用科目は、３・４年次に配当し、1.を踏まえてより専門・応用的内容の授業を行う。科目名への数字の付加は、基礎科目と同様の考えに基づく。1.基礎科目と同一の分野に置かれ、段階的な関連性を持つ科目に関しては、「○○論」（基礎科目）－「○○特講」（応用科目）という科目名表記によりその関連を明示する。この場合、同一の基礎レベルにある科目（「○○論Ⅰ」「○○論Ⅱ」……）は、どれでも同一の応用レベルにあるすべての科目（「○○特講Ⅰ」「○○特講Ⅱ」……）と対応するものとし、コース全体の科目が互いに有機的に連動し合った教育を行う（下図参照）。

3.ゼミナール科目は、各コースにおける専門教育の基幹となるものであり、２年次の「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」、３年次の「応用ゼミナールⅠ・Ⅱ」、４年次の「卒業研究」からなる。いずれも必修とし、学生は２年次春学期に各教員が個別に担当する「基礎ゼミナールⅠ」のうち一つを選択することで、各コース（日本語・日本文学コース、表現とメディアコース、多文化コミュニケーションコース、歴史文化コース、スポーツ文化コース）への所属が決定されることになる。「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」「応用ゼミナールⅠ・Ⅱ」および「卒業研究」は、少人数（10 名前後）のクラスとして実施し、一貫した連動性を保ちながら、最終的に卒業論文・卒業制作の実現を目標とした段階的な指導を行う。

また、各ゼミナールは別表により個別のゼミ名称（「○○ゼミナール」）を表記することにより、1.基礎科目、2.応用科目との関連性を示し、２年次配当の基礎的な授業科目、３・４年次配当の応用的な授業科目と連動した教育を行う（下図参照）。



4.学外研修

学外研修は、企業実習や海外語学研修、あるいは長期の実地に赴いたフィールドワークや協定校以外の大学への自主的留学をサポートし、体験的学修を奨励することを目的とす

る。実施にあたっては、各コースの教員が指導を行い、綿密な実施計画を提出させた上で実際の活動を行い、終了後には報告書を提出することで単位として認定する。コースにより選択科目もしくは選択必修科目とする。

なお、学外研修についてのより詳細な説明は、「コ　企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合」の項目を参照のこと。

オ　教員組織の編成の考え方及び特色

文化学部は、「共生と調和」という教育理念に基づき、国際化時代における自国文化と異文化の問題、情報化社会における人と技術の問題、自然環境における人と自然との問題などに対する解決力を有する、心豊かな人材を育成することを目標としている。

以上の学部の教育理念と目標を達成するために、文化学部文化学科では、一学科への統合により選択の幅の広い教育を行うことで、「文化学」という一つの領域を構成すると同時に、５つのコース（「日本語・日本文学」「表現とメディア」「多文化コミュニケーション」「歴史文化」「スポーツ文化」）を設けることにより、それぞれの専門分野での体系的・系統的な学修を通じて、問題解決の方法を身につける。具体的には、1 年次には学部内で共通化された基礎課程の科目を配置して「文化」を幅広く学び、2 年次以降では各コースごとに専門課程の科目を中心に、コースにおける専門分野について、基礎的内容から専門・応用的内容へと系統的に授業を学修できるようにしている。また、各コースにおける専門教育の根幹である専門ゼミナールなどの少人数ゼミを必修化することにより、段階的かつきめ細かな学生指導をする。

このような学部の教育理念・目標、および教育課程の性格・特色にあわせて、文化学部の教員組織は、「日本語・日本文学コース」の教員が教授 2 名、准教授 3 名、講師 2 名、小計 7 名、「表現とメディアコース」の教員が教授 3 名、准教授 1 名、小計 4 名、「多文化コミュニケーションコース」の教員が教授 4 名、准教授 1 名、小計 5 名、「歴史文化コース」の教員が教授 4 名、准教授 4 名、小計 8 名、「スポーツ文化コース」の教員は教授１名、講師３名、小計 4 名、学部総計 28 名である。特徴としてまず挙げられるのが、およそ全員が 1 年次の学部共通の「基礎論科目」および 2 年次以降のコース別の「基礎科目」「応用科目」に参画し、しかも「プレゼミ」「ゼミナール科目」を全員が担当することで、恒常的に学生と触れあい、きめ細かな学生指導ができることである。しかも、学生に対してすべてのコースの授業が開放されていることで、学生はすべての教員との交流が可能であるよう配慮されている。

また、今度のコース制導入においては、十分に教員の教育研究業績や学位を考慮し、各コースを編成している。主専攻 5 コースの専門課程科目に関しては、職位と年齢構成のバランス、研究業績と教育内容とのバランスの面も十分配慮している。

日本語・日本文学コースにおいては、日本語史や日本語表現法、古典から現代に至る日本文学などについてすべての教員が博士号を有している。また日本語や日本文学を、中国

を中心とする東アジアというフィールドから考察するという特色を確立するために、中国史研究と日中比較文学文化研究において博士号を有している教員を配置している。

表現とメディアコースは、現代の社会や文化に大きな力を及ぼしている出版や新聞、放送や通信（インターネット）などの諸メディアについて教育を展開するために、出版の実務経験や放送の実務経験を有している教授、准教授を中心に配置し、日進月歩の状態にある現代社会のメディア教育研究に対応している。

多文化コミュニケーションコースは、多文化主義的な考え方、生活様式、倫理側面、コミュニケーションのあり方などを、国際的な視野で対応するため、５名中４名の教員が、海外の大学への留学もしくは海外の大学での博士号取得など豊富な国際経験を持ち、英語による教育研究が可能なものである。

歴史文化コースでは、「考古学」「日本史」「アジア現代史」「地理学」「文化人類学」などの人文科学諸分野の方法論を総合的に学んでいくため、それぞれの専門分野の教員を配置している。また、アイヌ文化、北方の歴史、考古学、地理など、北方・北海道の地域研究を専門とする教員を揃えることを本コースの特色としている。

スポーツ文化コースでは、中核に「日本武芸」を置いているが、講義・演習科目担当者として専任教員には武道高段者を 2 名配置している。「スポーツ教育」も中核を担うが、スポーツ文化コース専任教員全てが保健体育の教員免許を有しておりそのうち 3 名は、教育学修士と中学校･高等学校保健体育の専修免許を取得している。また、1 名はスポーツ文化・社会科学系の博士号を取得しており、2 名は博士号取得予定である。

現在文化学部専任教員の年齢構成は、20 代 1 名、30 代 6 名、40 代 8 名、50 代 7 名、60 代 6 名であり、平均年齢は 49 歳である。全 28 名専任教員中、女性教員は 6 名いる。年齢構成と男女別構成から見て、概ね妥当な範囲に入っている。文化学部には 68 歳の教員は３名いる。本学の規定上の定年は 70 歳であり、学年進行中定年退職になるが、すでに後任人事の計画があり、カリキュラムの継続には支障はない。

カ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

文化学部文化学科では、四年間必修のゼミを中心とした少人数教育、コース制による履修モデルの明確化と入門から専門への段階的な履修指導、および副専攻制度による幅広い学習ニーズへの柔軟な対応などを、学部教育の制度的要とする。

各学生は、四年間を通じて常に１０名前後の少人数によるゼミナール（１年次「入門演習」「プレゼミ」、２年次「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」、３年次「応用ゼミナールⅠ・Ⅱ」、４年次「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」）に所属する。これにより、担当指導教員による履修指導、個別教育が常時行える体制を整える。ゼミナール以外の科目は、３０～１００名程度の講義形式もしくは演習形式により実施する。

学生に対する履修指導は、コース制度を柱として行う。２年次からの主専攻コース（日本語・日本文学コース、表現とメディアコース、多文化コミュニケーションコース、歴史

文化コース、スポーツ文化コース、以上５コース）の選択に伴い、学生は内容的に関連しあったコース別科目のなかから、ゼミナール科目（２～４年次必修）における指導教員の指導のもとに、段階的に位置づけられたコース別基礎科目（２年次)、コース別応用科目（３・４年次）を体系的に履修することになる。

このため１年次には、「入門演習」「プレゼミ」のほか、「文化学総論」および基礎論科目などの授業を通じ、２年次以降のゼミ・コース選択に向けた準備的指導を行う。

また、５つの主専攻コースに加え、７つの副専攻コース（主専攻と同種の５種＋横断的副専攻「比較文化コース」「東アジア文化コース」）を用意する。学生は、主専攻のほかに、任意の副専攻コースの科目を選択することが可能であり、必要要件を満たせば主専攻および副専攻の複数コースを修了認定することができる。これにより、多様なニーズに応じた幅広い専門的学習を可能にする。

学部共通の卒業要件は以下の通りである。

学部共通の卒業要件：下記の９０単位以上を含む１２４単位を　学部共通の卒業要件：下記の９０単位以上を含む１２４単位を修得する。

＊基礎課程：３８単位以上

（内訳）

・学部基幹科目：６単位必修

・言語系科目：８単位以上

・情報系科目：４単位以上

・基礎論科目：８単位以上

・共通科目：「入門演習」を含む１２単位以上

＊専門課程：５２単位以上

（内訳）

・基礎科目：２０単位以上

・応用科目：２０単位以上

・ゼミナール科目：「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」「応用ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ」を含む１２単位以上必修

専門課程については、各主専攻コース毎に下記の要件を満たすことが修了認定の要件となる（ゼミナール科目および学外研修については、主専攻として選択したコースの教員が担当するものを修得することとする)。

主専攻修了認定要件

＊日本語・日本文学コース：コース内の科目から下記を含む４０単位以上を修得する。

・基礎科目：１２単位
・応用科目：１２単位
・ゼミナール科目：１２単位
＊表現とメディアコース：コース内の科目から下記を含む４０単位以上を修得する。
・基礎科目：１２単位
・応用科目：１２単位
・ゼミナール科目：１２単位
＊多文化コミュニケーションコース：コース内の科目および表現とメディアコース科目「表象文化論Ⅰ」「表象文化論Ⅱ」「表象文化特講」から下記を含む４０単位以上を修得するほか、言語系科目１６単位以上、基礎論科目「多文化コミュニケーション基礎論」、共通科目「言語哲学入門」「文学とジェンダー」「国際性のための音楽通論」の修得を必要とする。
・基礎科目：１２単位
・応用科目：１２単位
・ゼミナール科目：１２単位
・学外研修：４単位
＊歴史文化コース：コース内の科目から下記を含む４０単位以上を修得する。
・基礎科目：１２単位
・応用科目：１２単位
・ゼミナール科目：１２単位
＊スポーツ文化コース：コース内の科目から基礎科目「スポーツ文化論」、応用科目「スポーツ文化特講」を含め３４単位以上を修得するほか、基礎論科目「スポーツ文化基礎論」「救急・応急処置演習」、関連学科目内の実技科目２単位以上の修得を必要とする。内訳は下記の必要単位数以上とする。
・基礎科目：１４単位
・応用科目：８単位
・ゼミナール科目：１２単位

副専攻コースを選択した場合は、各副専攻コース毎に下記の条件を満たすことが修了認定の要件となる。

副専攻修了認定要件
＊日本語・日本文学コース：コース内の科目から下記を含む２０単位以上を修得する。
・基礎科目：１０単位以上
・応用科目：６単位以上
＊表現とメディアコース：コース内の科目から下記を含む２０単位以上を修得する。

・基礎科目：１０単位以上
・応用科目：６単位以上
＊多文化コミュニケーションコース：コース内の科目から下記を含む２０単位以上を修得する。
・基礎科目：１０単位以上
・応用科目：６単位以上
＊歴史文化コース：コース内の科目から下記を含む２０単位以上を修得する。
・基礎科目：１０単位以上
・応用科目：６単位以上
＊スポーツ文化コース：コース内の科目から下記を含む２０単位以上を修得する。
・基礎科目：「スポーツ文化論」を含め１０単位以上
・応用科目：「スポーツ文化特講」を含め６単位以上
＊比較文化コース（副専攻のみ）：コース内の科目（表１）から下記を含む２０単位以上を修得する。ただし、主専攻コースと重複する科目を除く。
・基礎科目：１０単位以上
・応用科目：６単位以上
＊東アジア文化コース（副専攻のみ）：コース内の科目（表２）から下記を含む２０単位以上を修得する。ただし、主専攻コースと重複する科目を除く。
・基礎科目：１０単位以上
・応用科目：６単位以上

表１　比較文化コース科目	
基礎科目	日中比較文学文化論、日中文化交流論、表象文化論Ⅰ、表象文化論Ⅱ、比較宗教論Ⅰ、比較宗教論Ⅱ、比較思想論、比較文化論、アイヌ文化論、文化人類学論、スポーツ史論
応用科目	日中比較文学文化特講、日中文化交流特講Ⅰ、日中文化交流特講Ⅱ、表象文化特講、比較思想特講、比較文化特講、アイヌ文化特講、文化人類学特講、スポーツ史特講

表２　東アジア文化コース科目	
基礎科目	日中比較文学文化論、日中文化交流論、文化・ヒト・環境論Ⅰ、文化・ヒト・環境論Ⅱ、外国史Ⅰ、日本史Ⅰ、国際関係論、アイヌ文化論、日本武芸文化論
応用科目	日中比較文学文化特講、日中文化交流特講Ⅰ、日中文化交流特講Ⅱ、文化・ヒト・環境特講、アジア現代史Ⅰ、アジア現代史Ⅱ、アイヌ文化特講、日本武芸文化特講、東洋身体文化論

各主専攻コース別の履修モデルを以下に示す（コース別科目中、ゴチック体は他コースの科目を示す）。

①日本語・日本文学コース

想定される人物像：広く日本の文化を学び、国語科教員免許(中一種、高一種)を目指す人材。

総計 124 単位	１年次 (38)	２年次 (40)	３年次 (28)	４年次 (18)
学部基幹科目(6)	文化学総論 4			
	プレゼミ 2			
言語系科目(8)	初級英語 4	初級中国語 4		
情報系科目(4)	情報と文化 2			
	情報と技術 2			
基礎論科目(8)	言語基礎論Ⅰ 2			
	言語基礎論Ⅱ 2			
	日本文学基礎論Ⅰ 2			
	日本文学基礎論Ⅱ 2			
ｺｰｽ別基礎科目(30)		日本語表現論Ⅰ 2		
		日本語表現論Ⅱ 2		
		日本語概論Ⅰ 2		
		日本語概論Ⅱ 2		
		日本文学史Ⅰ 2		
		日本文学史Ⅱ 2		
		日本文学論Ⅰ 2		
		日本文学論Ⅱ 2		
		日中比較文学文化論 2		
		漢文学Ⅰ 2		
		漢文学Ⅱ 2		
		書道Ⅰ 2		
		書道Ⅱ 2		
		日本史Ⅰ 2		
		日本史Ⅱ 2		
ｺｰｽ別応用科目(34)			日本語文法論Ⅰ 2	日本文学特講Ⅲ 2
			日本語文法論Ⅱ 2	日本文学特講Ⅳ 2

			日本語史Ⅰ 2	日本文学特講Ⅴ 2
			日本語史Ⅱ 2	日本文学特講Ⅵ 2
			日本文学特講Ⅰ 2	日中文化交流特講Ⅱ 2
			日本文学特講Ⅱ 2	
			日本文学特講Ⅶ 4	
			日中比較文学文化特講 2	
			日中文化交流特講Ⅰ 2	
			日本語教授法Ⅰ 2	
			日本語教授法Ⅱ 2	
ｺｰｽ別ｾﾞﾐﾅｰﾙ科目(16)		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（日本文学） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（日本文学） 2	卒業研究Ⅰ 4
		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（日本文学） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（日本文学） 2	卒業研究Ⅱ 4
関連学科目(6)	法学概論Ⅰ 2	憲法 2		
	法学概論Ⅱ 2			
共通科目(12)	入門演習 2			
	Japanese Literature in Translation 2			
	日本語論 2			
	文学とｼﾞｪﾝﾀﾞｰ 2			
	日本の文学 2			
	日中関係論 2			

②表現とメディアコース

想定される人物像：各種表現とメディアに精通し、同時に広く比較文化的な視野を身につけ、企画や広報などの分野で活躍する人材。（「比較文化コース」を副専攻履修）

総計 124 単位	１年次 (40)	２年次 (34)	３年次 (32)	４年次 (18)
学部基幹科目(6)	文化学総論 4			
	プレゼミ 2			
言語系科目(8)	初級英語 4	初級朝鮮語 4		
情報系科目(4)	情報と文化 2			
	情報と技術 2			

基礎論科目(18)	ﾒﾃﾞｨｱ基礎論Ⅰ 2	ｽﾎﾟｰﾂ文化基礎論 2		
	ﾒﾃﾞｨｱ基礎論Ⅱ 2	言語基礎論Ⅰ 2		
	多文化コミュニケーション基礎論 2	言語基礎論Ⅱ 2		
	国際関係基礎論 2			
	歴史学基礎論 2			
	文化人類学基礎論 2			
ｺｰｽ別基礎科目(36)		ﾒﾃﾞｨｱ論 2	日中文化交流論 2	
		ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾞﾑ論 2	比較宗教論Ⅰ 2	
		ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ文化論 2	比較宗教論Ⅱ 2	
		放送ﾒﾃﾞｨｱ論 2	比較文化論 2	
		広告文化論 2	ｱｲﾇ文化論 2	
		ﾒﾃﾞｨｱ表現演習Ⅰ 2	文化人類学論 2	
		ﾒﾃﾞｨｱ表現演習Ⅱ 2	スポーツ史論 2	
		表象文化論Ⅰ 2	ﾒﾃﾞｨｱ表現演習Ⅲ 2	
		表象文化論Ⅱ 2		
		ﾒﾃﾞｨｱｱｰﾄ演習Ⅰ 2	ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ演習Ⅰ 2	
		ﾒﾃﾞｨｱｱｰﾄ演習Ⅱ 2	ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ演習Ⅱ 2	
ｺｰｽ別応用科目(24)		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾐｭｰｼﾞｯｸ演習Ⅰ 2	映像文化特講 2	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾐｭｰｼﾞｯｸ演習Ⅱ 2	出版文化論Ⅰ 2	
			出版文化論Ⅱ 2	日中文化交流特講Ⅱ 2
			放送文化論 2	比較文化特講 2
			広告文化特講 2	ｱｲﾇ文化特講 2
			表象文化特講 2	
			ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ演習 2	
ｺｰｽ別ｾﾞﾐﾅｰﾙ科目(16)		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（放送ﾒﾃﾞｨｱ） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（放送ﾒﾃﾞｨｱ） 2	卒業研究Ⅰ 4
		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（放送ﾒﾃﾞｨｱ） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（放送ﾒﾃﾞｨｱ） 2	卒業研究Ⅱ 4
共通科目(12)	入門演習 2			
	表現と文化 2			
	西洋美術史 2			

	文学とｼﾞｪﾝﾀﾞｰ 2			
	情報の理論 2			
	身体論 2			

③多文化コミュニケーションコース

想定される人物像：日本や世界における多文化的な状況と要素を認識し，異文化を深く理解・尊重する能力を身につけ、日本語教師を目指す人材。（「日本語・日本文化」コースを副専攻履修）

総計 124 単位	１年次 (38)	２年次 (36)	３年次 (32)	４年次 (18)
学部基幹科目(6)	文化学総論 4			
	プレゼミ 2			
言語系科目(16)	初級英語 4	入門ｲﾀﾘｱ語 4		
	中級英語 4	初級ｲﾀﾘｱ語 4		
情報系科目(4)	情報と文化 2			
	情報と技術 2			
基礎論科目(12)	多文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ基礎論 2			
	文化・ﾋﾄ・環境基礎論 2			
	日本文学基礎論Ⅰ 2			
	日本文学基礎論Ⅱ 2			
	言語基礎論Ⅰ 2			
	言語基礎論Ⅱ 2			
ｺｰｽ別基礎科目(28)		言語文化論 2	文化表象論Ⅱ 2	
		比較宗教論Ⅰ 2	比較文化論 2	
		比較宗教論Ⅱ 2	日本語概論Ⅰ 2	
		異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論 2	日本語概論Ⅱ 2	
		世界文学論Ⅰ 2	日本語文法論Ⅰ 2	
		文化表象論Ⅰ 2	日本語文法論Ⅱ 2	
		表象文化論Ⅰ 2		
		世界文学論Ⅱ 2		
ｺｰｽ別応用科目(26)			言語文化特講 2	日本語教授法Ⅰ 2
			異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ特講Ⅱ 2	日本語教授法Ⅱ 2

			比較思想特講 2	日本語教授法III 2
			比較文化特講 2	日本語教授法IV 2
			ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ演習 2	日本語教育教材・教具論 2
			翻訳演習 2	
			日本語史Ⅰ 2	
			日本語史Ⅱ 2	
ｺｰｽ別ｾﾞﾐﾅｰﾙ科目(16)		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（言語文化） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（言語文化） 2	卒業研究Ⅰ 4
		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（言語文化） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（言語文化） 2	卒業研究Ⅱ 4
ｺｰｽ別学外研修(4)		学外研修Ａ 4		
共通科目(12)	入門演習 2	国際性のための音楽通論 2		
	言語哲学入門 2	現代思想入門 2		
	文学とｼﾞｪﾝﾀﾞｰ 2			
	日本語論 2			

④歴史文化コース

想定される人物像：何事にも興味と関心を示し、慎重で忍耐力のある文化財調査員や博物館学芸員等のような専門的な能力を有する人材。

総計 124 単位	１年次 (36)	２年次 (38)	３年次 (34)	４年次 (16)
学部基幹科目(6)	文化学総論 4			
	プレゼミ 2			
言語系科目(8)	入門アイヌ語 4			
	初級アイヌ語 4			
情報系科目(4)	情報と文化 2			
	情報と技術 2			
基礎論科目(8)	考古学基礎論 2			
	歴史学基礎論 2			
	地理学基礎論 2			
	文化人類学基礎論 2			
ｺｰｽ別基礎科目(44)		ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ論Ⅰ2	自然地理学Ⅰ 2	ﾒﾃﾞｨｱ論 2
		ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ論Ⅱ2	自然地理学Ⅱ2	比較宗教論Ⅰ 2
		ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ論III2	地誌学Ⅰ 2	

		考古学研究 2	地誌学Ⅱ 2	
		文化財論Ⅰ 2	日本史Ⅱ 2	
		文化財論Ⅱ 2	文化人類学論 2	
		外国史Ⅰ 2		
		外国史Ⅱ 2		
		日本史Ⅰ 2		
		人文地理学Ⅰ 2		
		人文地理学Ⅱ 2		
		アイヌ文化論 2		
		日本社会文化史 2		
		日中文化交流論 2		
ｺｰｽ別応用科目(22)			考古学特講Ⅰ 2	文化人類学特講 2
			考古学特講Ⅱ 2	日中文化交流特講Ⅱ 2
			考古学特講Ⅲ 2	
			北方史 2	
			北海道自然論 2	
			北海道地域文化論 2	
			アイヌ文化特講 2	
			北海道生活文化論Ⅰ 2	
			北海道生活文化論Ⅱ 2	
ｺｰｽ別ｾﾞﾐﾅｰﾙ科目(16)		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（考古学） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（考古学） 2	卒業研究Ⅰ 4
		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（考古学） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（考古学） 2	卒業研究Ⅱ 4
共通科目(16)	入門演習 2	異文化間交流論 2		
	アイヌの歴史と社会 2	ロシア文化論 2		
	西洋美術史 2	日中関係論 2		
	考古学への誘い 2			
	社会学入門 2			

⑤スポーツ文化コース

想定される人物像：日本文化を鳥瞰でき、かつ日本の武芸やスポーツ文化に精通した人材。

総計 124 単位	１年次 (40)	２年次 (32)	３年次 (38)	４年次 (14)
学部基幹科目(6)	文化学総論 4			
	プレゼミ 2			
言語系科目(16)	入門中国語 4	中級中国語 4		
	初級中国語 4	応用中国語 4		
情報系科目(4)	情報と文化 2			
	情報と技術 2			
基礎論科目(12)	日本文学基礎論Ⅰ 2			
	日本文学基礎論Ⅱ 2			
	表現と文化 2			
	文化人類学基礎論 2			
	ｽﾎﾟｰﾂ文化基礎論 2			
	救急・応急処置演習 2			
ｺｰｽ別基礎科目(34)		ｽﾎﾟｰﾂ文化論 2	表象文化論Ⅰ 2	
		ｽﾎﾟｰﾂ史論 2	表象文化論Ⅱ 2	
		日本武芸文化論 2	日本社会文化史 2	
		ｽﾎﾟｰﾂ社会学 2	アイヌ文化論 2	
		ｽﾎﾟｰﾂ哲学 2	文化人類学論 2	
		ｽﾎﾟｰﾂ人類学 2	日本史Ⅰ 2	
		日本武芸文化演習基礎Ⅰ 2	日本史Ⅱ 2	
		日本武芸文化演習基礎Ⅱ 2	書道Ⅰ 2	
			書道Ⅱ 2	
ｺｰｽ別応用科目(20)			ｽﾎﾟｰﾂ文化特講 2	デザイン論 2
			ｽﾎﾟｰﾂ史特講 2	ライティング演習 2
			日本武芸文化特講 2	文化人類学特講 2
			ﾚｼﾞｬｰ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ論 2	
			ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ論 2	

			日本武芸文化演習応用Ⅰ 2	
			日本武芸文化演習応用Ⅱ 2	
ｺｰｽ別ｾﾞﾐﾅｰﾙ科目(16)		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（日本武芸文化） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ（日本武芸文化） 2	卒業研究Ⅰ 4
		基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（日本武芸文化） 2	応用ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ（日本武芸文化） 2	卒業研究Ⅱ 4
関連学科目(4)		サッカー 1	サマー・スポーツ演習 2	
		武道 1		
共通科目(12)	入門演習 2	日本語論 2		
	身体論 2			
	健康論 2			
	日本の文学 2			
	日本語表現法 2			

履修科目の登録上限（学部共通）は、各学期２４単位（1 年度４８単位）とする。

他大学における授業科目の履修は、以下の制度を利用することにより可能である。

1.札幌圏大学・短期大学単位互換協定

他大学の講義を年間 10 単位まで履修でき、本学の卒業単位に組み入れることができる。

協定校：札幌学院大学、北星学園大学、酪農学園大学、札幌国際大学、北海道東海大学、北海道浅井学園大学、酪農学園大学短期大学部、北星学園大学短期大学部、札幌国際大学短期大学部、北海道浅井学園大学短期大学部

2.交換留学制度

交流協定を結ぶ下記大学に留学した場合、留学先の大学で履修した単位を最高 60 単位まで本学の卒業単位に組み入れることが出来る。

国内協定校：沖縄大学　人文学部　国際コミュニケーション学科
　　人文学部　福祉文化学科
　　和光大学　表現学部　表現文化学科
　　表現学部　イメージ文化学科

海外協定校：ネブラスカ州立大学カーニィ校（アメリカ）
　　ネブラスカ州立大学リンカーン校（アメリカ）
　　ペンシルバニア州立エディンボロ大学（アメリカ）
　　ノバスコシア州立セントメアリーズ大学（カナダ）
　　広東外語外貿大学東方語言文化学院（中国）
　　天津外国語学院（中国）

華東理工大学（中国）
韓瑞大学校人文社会学部（韓国）
ボローニャ大学コミュニケーション科学学科（イタリア）
ペルージャ外国人大学（イタリア）

キ　施設、設備等の整備計画

（ａ）校地、運動場の整備計画

文化学部文化学科の設置に伴う校地、運動場の整備計画は特にない。

札幌大学は「生気あふれる開拓者精神」を建学の精神に掲げ、「生気・知性・信頼」を教育目標として札幌市内西岡地区に開学した。文化学部は、「共生と調和」という教育理念に基づき、問題解決力を有し心豊かな人材を育成することを目標としている。その教育にふさわしい環境として、四季の変化を感じる自然や、学習やスポーツをするためのゆとりある広さが必要であると考える。大学のキャンパスは 205,000 ㎡あり、届出書中の「校地校舎等の図面」の通り、大学の森や、運動場として２棟の体育館、陸上競技場、第２球技場、野球場、サッカー場、テニスコート、弓道場を既に整備している。

学生の休息や交流の場としては、大学会館や食堂を整備している。また、宿泊設備をもったセミナーハウスも大学キャンパス内に整備している。

（ｂ）校舎等施設の整備計画

文化学部文化学科の設置に伴う校舎等施設の整備計画は特にない。

既設の日本語・日本文化学科及び比較文化学科（平成 19 年 4 月募集停止）の研究室、演習室、教室をそのまま使用することにより、既に整備されている。

（ｃ）図書等の資料及び図書館の整備計画

札幌大学では図書館（女子短期大学部と共用）を中心に、資料の収集、整理及び提供を行っており、平成 17 年度末現在、蔵書は 641 千冊、学術雑誌は 6.5 千タイトル、視聴覚資料 11 千点を所蔵する。図書館所蔵図書中に文化学部図書は、文学、歴史等の人文科学関係図書を中心に 133 千冊、既に整備している。スポーツ文化コースに係る保健体育関係図書の充実を図るため、開設前年度及び開設年度に関係図書を各 500 冊、合計 1 千冊整備する計画。

データベース検索、電子ジャーナル等の電子情報の提供、資料検索ガイドや図書館利用法などを、図書館ホームページから提供する情報システムを既に整備している。

図書館には図書閲覧室のほか、参考図書閲覧室、雑誌閲覧室、マイクロ資料閲覧室、情報検索室、AV 視聴ルーム、教職員・大学院生閲覧室を整備している。また、図書は 9 割以上開架されており、学生も教員も書架で直接図書をみることができる。閲覧座席数は 687 席あり、大学及び女子短期大学部の収容定員の 1 割を超え、必要な席数が確保されている。

レファレンス・カウンターには専門職員を配置し、教育研究支援に対応している。

他大学図書館との協力については、国立情報学研究所の NACSIS に加入しており、文献複写サービスや図書現物の貸借（ILL）を行っている。また、北海道地区の大学図書館相互利用サービスに加盟し、加盟している大学の学生も教職員も直接利用ができ、図書の貸出しにも応じている。

ク　入学者選抜の概要

文化学部は、受験生の能力、適性等の多面的な評価を行う観点から、学科試験を免除した入試として、学校長推薦による公募制推薦入試、学校長推薦を要しない自己ＰＲ特別入試、スポーツ分野における顕著な活躍を評価するスポーツ推薦入試を実施し、このほか３教科による筆記試験を課す一般入試、大学入試センター試験利用入試を実施していることに加えて、帰国生徒入試、社会人入試、私費外国人留学生入試も実施している。特に、推薦入試においては、筆記試験のみでは判定することが出来ない受験生の多様な能力あるいは興味関心の有り様といった点を多面的かつ総合的に評価する多くの制度を実施している。その様な制度で評価され入学した学生が、入学後の学修によって動機付けられ、筆記試験による入試制度で入学した学生と差異なく、自らの興味関心の発見並びに自己学修能力の体得を期待し得る。

１．推薦入学試験

〔公募制Ａ〕

[趣　　旨] 高等学校もしくは中等教育学校における学習成績に比重をおいて評価し、より学習意欲の旺盛な生徒を受け入れる。

[出願資格] 学校長から推薦された者。

[選考方法] 書類審査、面接による総合評価

[選考基準] 調査書点７０点、面接点３０点、合計１００点満点

２．自己ＰＲ特別入学試験

〔公募制Ｂ（自己推薦）〕

[趣　　旨] 高等学校もしくは中等教育学校または社会における諸活動を通して、日本文化、諸外国の文化あるいは文化そのものに関心を抱き、積極的、意欲的に文化を学びたいという生徒を受け入れる。

[出願資格] 生徒会活動、課外活動あるいは社会におけるボランティア活動などの諸活動に参加した者。学校長の推薦書は必要ないが、志望理由書(1600 字以内)を提出すること。

[選考方法] 書類審査（志望理由書）、面接による総合評価

志望理由書には、①高等学校もしくは中等教育学校または社会においてどのような活動を行い、その活動を通して日本の文化（諸外国での活動

ならその国の文化）に関して学んだことあるいは発見したこと、②日頃文化に関してどのような関心があるか、③本学部で学びたいことは何か、その知識を将来どのように活かせると考えるか、の３点を記述すること。

[選考基準] 面接７０点、志望理由書３０点、合計１００点満点

〔公募制Ｃ（自己推薦）〕

[趣　　旨] 指定した資格の取得を条件とし、生徒の持つ多様な能力を評価して受け入れる。

[出願資格] 表で示す資格を取得している者。学校長の推薦書は必要ない。
表で示す資格は、実用英語技能検定（日本英語技能検定協会）３級以上ほか１９資格。

[選考方法] 書類審査、面接による総合評価

[選考基準] 調査書点４０点、面接点６０点、合計１００点満点

３．スポーツ推薦入試

[趣　　旨] 本学の教育目標に照らし、学業とスポーツの両立を目指す個性豊かで活力ある人材の育成を目的として、優れた運動能力を持ち目標に向かって努力を重ねてきた生徒を受け入れる。

[出願資格] 高等学校もしくは中等教育学校を卒業見込みで、全体の評定平均値３．１以上で、次に掲げる条件に該当し、学校長から推薦された者。
① 本学が指定する種目のクラブの本学顧問から推薦された者。
② 本学が定める競技基準に該当し、本学入学後当該クラブにおいて課外活動を継続して行う意志を有する者。

[選考方法] 書類審査、面接による総合評価

４．一般入試

[趣　　旨] 国語、外国語、地理歴史あるいは公民の３教科による筆記試験を行い、より学力の高い生徒を受け入れる。

[試験科目] A 日程；得点上位の２教科の合計点（200 点満点）で判定
国語；国語総合（漢文を除く）、現代文　100 点満点
外国語；英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング・ライティング　100 点満点
地理歴史または公民；世界史Ｂ、日本史Ｂ、地理Ｂ、政治・経済の中から 1 科目　100 点満点

[試験科目]B 日程；小論文（1000 字以内）

[出願期間] １月初旬から月末までの間出願を受付けるほかに、2 月下旬から B 日程の出願を受付けている。

５．大学入試センター試験利用入試

[趣　　旨] 大学入試センター試験の得点を利用し、国語、外国語、地理歴史あるいは公民の３教科の合計点をもとに判定し、より学力の高い生徒を受け入れる。

[利用科目] ３教科の合計点（300 点満点）で判定

国語；国語総合（漢文を除く）、　100 点満点

外国語；英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の中から 1 科目 100 点満点

地理歴史または公民；世界史Ｂ、日本史Ｂ、地理Ｂ、現代社会、倫理、政治・経済の中から 1 科目　100 点満点

[出願期間] 一般入試 A 日程の出願期間に合わせて前期日程の出願を受付けるほかに、2 月下旬から後期日程の出願を受付けている。

６．特別入試

（１）社会人特別入学試験

[出願資格] 高等学校もしくは中等教育学校卒業後、受験日を含む年度の翌年度初日に満２３歳以上であること。

[選考方法] 小論文（４０点満点）、面接（６０点満点）による総合評価

（２）海外帰国生徒特別入学試験

[出願資格] 日本国籍を有し、外国で学び、さらに本学の求める条件を有すること。

[選考方法] 小論文（４０点満点）、面接（日本語で志望動機を問う；６０点満点）による総合評価

７．私費外国人留学生の受け入れについて

本学では、日本政府の政策であった「留学生１０万人計画」を受け入れ、平成 8 年度文化学部日本語・日本文化学科、同比較文化学科及び経営学部産業情報学科の設置認可申請時にそれぞれ、５人、１０人、１５人の合計３０人の外国人留学生を積極的に受け入れる旨文部科学省に申請し、学部ならびに学科が設置認可されたものである。

受け入れにあたっては、勉学意欲、学力そして日本語能力を問うことに重点を置いて、留学生の推薦入試及び一般入試を行い、厳正な入学試験を実施している。入試制度は、推薦協定に基づく国外推薦入試、推薦依頼校からの国内推薦入試、国内一般入試の３制度である。さらに、平成１７年度からは、文化学部及び経営学部において国外協定校からの３年次転入学制度、交換留学制度（若干名募集）を設け、受け入れ実

績を積んできた。留学協定を結んだ海外の協定校は次のとおりである。

- 広東外語外貿大学（中国）
- 天津外国語学院（中国）
- 上海華東理工大学（中国）
- 青島濱海学院（中国）
- 韓瑞大学校（韓国）
- 時事日本語学院（韓国）

（1） 入試制度

【国外推薦入試】

[出願資格] 大学で学修するに十分な日本語能力があること。

[選考方法] 筆記試験（日本留学試験に相当する試験）、書類審査、面接による総合評価

【国内推薦】

[出願資格] 受験日を含む年度の日本留学試験（日本学生支援機構）の「日本語」、「総合科目」を受験し、大学で学修するに十分な日本語能力があること。

[選考方法] 日本留学試験２科目のスコア、書類審査、面接による総合評価

【国内一般入試】

[出願資格] 受験日を含む年度の日本留学試験（日本学生支援機構）の「日本語」、「総合科目」を受験し、大学で学修するに十分な日本語能力があること。

[選考方法] 日本留学試験２科目のスコア、書類審査、面接による総合評価

（2） 受け入れ後の支援体制

私費外国人留学生の受け入れ後の支援体制については、経済的支援として授業料の 30%減免、経済的に苦しい留学生に年額 300,000 円の住宅費補助、学内食堂の食券年額 100,000 円補助（札幌大学から 70,000 円、札幌大学生活協同組合から 30,000 円）、札幌大学生活協同組合の利用券 40,000 円補助（札幌大学後援会から）、新入生に国語辞典「広辞苑」贈呈（札幌大学後援会から）、学生医療互助会費（入会金 500 円、年会費 3,000 円）の補助を行っている。

また、修学及び学生生活全般の支援として、アドバイザー制度により、全留学生を各教員が分担して年２回定期的に面談指導を行い、総合学生支援システム（アイトス）にその情報を蓄積して共有している。さらにアイトスを利用して留学生を含む全学生の授業出席状況を蓄積すると共にリアルタイムで把握し、学生自らの修学管理に利用するほか、アドバイザーの面談指導にも利用し

ているなど、より懇切丁寧な支援策を実施している。

ケ　資格取得

・日本語教員（日本語教育副専攻相当）

当学部において学士の学位を授与されることを前提に、下記科目から 32 単位以上を履修することにより、日本語教員養成課程の修了証書を授与する。追加科目の履修の必要はない。

Ⅰ．日本語の構造に関する科目（１０単位必修）		
日本語論	２単位	１・２・３・４年次
日本語概論Ⅰ	２単位	２年次
日本語概論Ⅱ	２単位	２年次
日本語文法論Ⅰ	２単位	３年次
日本語文法論Ⅱ	２単位	３年次
Ⅱ．日本人の言語生活に関する科目（４単位必修）		
日本語史Ⅰ	２単位	３年次
日本語史Ⅱ	２単位	３年次
Ⅲ．日本事情に関する科目（４単位以上選択必修）		
日本文学基礎論Ⅰ	２単位	１年次
日本文学基礎論Ⅱ	２単位	１年次
日本文学論Ⅰ	２単位	２年次
日本文学論Ⅱ	２単位	２年次
日本文学論Ⅲ	２単位	２年次
日本文学論Ⅳ	２単位	２年次
日本文学史Ⅰ	２単位	２年次
日本文学史Ⅱ	２単位	２年次
Ⅳ．言語学的知識・能力に関する科目（４単位必修）		
言語基礎論Ⅰ	２単位	１年次
言語基礎論Ⅱ	２単位	１年次
Ⅴ．日本語の教授に関する科目（１０単位必修）		
日本語教授法Ⅰ	２単位	３年次
日本語教授法Ⅱ	２単位	３年次
日本語教授法Ⅲ	２単位	３年次
日本語教授法Ⅳ	２単位	３年次
日本語教育教材・教具論	２単位	３年次

コ　企業実習や海外語学研修など学外実習の実施について、その具体的な計画

文化学部では全コースにわたり、学外研修という履修制度を設ける。概要は以下のとおり

［引率型］学外研修Ａ

■単位：４単位

■科目区分：選択科目

■期別：春学期・秋学期

■学年：２～４年次

■授業概要：７～１４日間程度の短期間の教員引率型研修で、担当教員作成の授業計画書に応募し、履修する。また、時間割には組み込まれないが、学期を通じて授業がある。

■成績評価：研修参加状況、研修結果報告書によって総合的に評価する。

■テキスト：それぞれの引率教員が指示する。

■特記事項：実施前学期に説明会があるので必ず出席すること。１年（２セメスター）に４単位のみの履修とするが、複数年履修も可能とする。

　履修届は実施前学期に提出し、研修実施後に研修報告を提出した学期の単位認定となる。

　応募時に履修予定者が４人以下の場合は実施しない(５人以上で実施)。

［自主型］学外研修Ｂ

■単位：４単位

■科目区分：選択科目

■期別：春学期・秋学期

■学年：２～４年次

■７～１４日間程度の学外で行う自主的な研究・研修で、例えば言語・文化・社会研究、地域研究、民族(民俗)学的ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、遺跡の発掘調査・整理作業、目的を持った取材活動、NGO・NPO 活動、その他公的機関(自治体等)・社会教育機関(公民館・図書館・博物館等)や民間企業での研修、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ活動等に従事するもの等で、教務小委員会が認定する研修活動。

　ただし、連続する必要はなく、学期期間内に必要日数を満たせばよい。

■授業計画

　事前に指導教員を定め、計画書を提出し、教務小委員会の認定を受ける。

計画期間が終了した後、研修報告が義務づけられる。

■成績評価

　研修成果、研修報告に基づき指導教員が評価する。

■特記事項：１年（2 セメスター）に４単位のみの履修とするが、複数年履修も可能とする。

　履修届は実施前学期に提出し、研修実施後に研修報告を提出した学期の単位認定となる。

［自主型］学外研修Ｃ
■単位：１２単位
■科目区分：選択科目
■期別：春学期・秋学期
■学年：２～４年次
■春学期ないしは秋学期の全期間にわたり、他の大学や研究機関（研究所・博物館など)、公的機関(自治体等)・社会教育機関(公民館・図書館)や民間企業での研修や留学をするもの。もしくは学外で行う自主的な研究・研修に従事するもの。いずれも国内外を問わない。
　調査・研究・研修活動は、例えば言語・文化・社会研究、地域研究、民族(民俗)学的ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、遺跡の発掘調査・整理作業、目的を持った取材活動、NGO・NPO 活動、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ活動等に従事するもの等で、教務小委員会が認定する研修活動。
■授業計画
　事前に指導教員を定め、計画書を提出し、教務小委員会の認定を受ける。
計画期間が終了した後、研修報告が義務づけられる。
■成績評価
　研修成果、研修報告に基づき指導教員が評価する。
■特記事項：１年（2 セメスター）に１２単位のみの履修とするが、複数年履修も可能とする。
　履修届は実施前学期に提出し、研修実施後に研修報告を提出した学期の単位認定となる。
　ただし当該学期のゼミ・卒業研究の単位をふり替えることができる。

［自主型］学外研修Ｄ
■単位：２４単位
■科目区分：選択科目
■期別：春学期・秋学期
■学年：２～４年次
■春・秋学期（２セメスター）にわたって、他の大学や研究機関（研究所・博物館など)、公的機関(自治体等)・社会教育機関(公民館・図書館)や民間企業での研修や留学をするもの。もしくは学外で行う自主的な研究・研修に従事するもの。いずれも国内外を問わない。
　調査・研究・研修活動は、例えば言語・文化・社会研究、地域研究、民族(民俗)学的ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、遺跡の発掘調査・整理作業、目的を持った取材活動、NGO・NPO 活動、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ活動等に従事するもの等で、教務小委員会が認定する研修活動。
■授業計画
　事前に指導教員を定め、計画書を提出し、教務小委員会の認定を受ける。
計画期間が終了した後、研修報告が義務づけられる。

■成績評価

研修成果、研修報告に基づき指導教員が評価する。

■特記事項：複数年履修も可能とする。

履修届は実施前学期に提出し、研修実施後に研修報告を提出した学期の単位認定となる。ただし当該学期のゼミ・卒業研究の単位をふり替えることができる。

チ　自己点検・評価

高等教育における教育・研究の質の維持・向上を図るために、大学が積極的に教育・研究活動等の状況について自己点検・評価を行い、その結果を公表すると共に、評価結果に基づいての改善と充実を行うことを目的に、認証機関による第三者評価が義務化されている。本学は、平成 9 年に大学基準協会に正会員として承認を受け、大学の教育研究、学生サービスの質の向上を目標に、自己点検・評価活動に力を入れてきた。そして、平成 15 年度に大学基準協会に相互評価を申請し、平成16年4月1日付で大学基準適合認定を受けた。その際に特に評価されたのが、建学の精神をはじめとする本学の理念・目的・教育目標への全学的な姿勢、恒常的に自己点検・評価を進めるための制度、北海道という地域を念頭においた教育研究活動、社会人の受け入れや図書館の地域開放とその利用実績の高さ等の地域社会への貢献活動である。

こうした第三者評価のみならず、文化学部では、自己点検・評価を恒常的に進めるための「FD 自己点検小委員会」を設置し(2004 年度)、学部全体の目標、その目標達成のための計画、さらにその達成度について点検・評価を要請し、点検・評価の結果を整理・公表した(『2003 札幌大学文化学部教員の活動一覧』2004 年 9 月刊)。

文化学部では、自己点検評価を学部の発展につながるものとして位置づけている。特に教育研究の点検・評価に重きを置いて、全学一体で実施している、学生による「授業評価アンケート」を活用し、学部の教育システムに対する点検・評価を実施している。その評価結果については、報告書を作成し、公表につとめてきた。今度のコース制導入による新しい教育システムについても、点検・評価をくり返し、教育研究の質の向上を図ることで、社会からの期待に応えられる、満足度の高い教育が行われることを目指す。

ツ　情報の提供

大学入学希望者、在学生や一般社会人に対して、学部学科の情報を提供することは重要な課題であると認識し、学部学科の教育理念、教育目標、また各教員の研究業績、論文などを中心に公開している。

具体的な情報提供の媒体として、第一に、大学全体のホームページおよび学部独自のホームページが挙げられる。とくに学部のホームページにおいて、教育目標、および目標達成のための具体的な方策を示している。また教員に関する情報公開については、各教員の個別紹介ページを作成し、専門分野、担当科目、これまでの業績、さらに自己点検評価の

データなどの情報を提供している。

第二に、学部の紀要『比較文化論叢』、おもに学部教員および学部学生によって構成される文化学会の機関誌『危機と文化』などの刊行物が挙げられる。これらを通じ、教員の研究成果、学生の学習成果などを定期的に公開している。

第三に、文化学部主催の「北方文化フォーラム」や各種シンポジウムなどの講演・発表が挙げられる。とくに年間六回程度開催される「北方文化フォーラム」をはじめ、こうした催しのほとんどが一般公開されており、絶えず学部の最新な研究成果を社会一般に還元するよう努めている。

学生の履修指導の情報として、シラバスを冊子で示すと同時に、大学のホームページにおいても閲覧できるようになっている。シラバスにおいては、講義の概要、評価の基準などについても明記されている。

卒業生の進路状況に関しては学部の就職担当職員や教員によって、随時データを集約し、大学案内、学部パンフレット、広報誌「藻嶺」などを発行、オープンキャンパスなどの機会を通じて配布を行っている。

テ　教員の資質の維持向上の方策

札幌大学では 2004 年度以降「札幌大学 FD 推進委員会」が中心となり、教員の資質の維持向上を目的の一つとして、学生による「授業アンケート」を全学的に取り組んでいる。文化学部においても、FD 委員（１名）および FD 小委員（４名）を選出し、過去２年間（計４セメスター）授業評価を実施してきた。文化学部 FD 小委員会では、独自に「授業アンケート」結果をさらに分析し、統計資料のみならず、学生による自由記述にも重点を置き、教育・研究活動向上・能力開発のためのデータベースとしての活用を試みている。昨年度は、大学代表として文化学部 FD 委員が、京都において開催された全国的な FD フォーラムに参加し、その報告を行なっている。また、札幌大学では、ゲスト・スピーカーによる FD 講演会を実施しており、今年度は７月に立命館大学木野茂教授による講演会が開催されることになっている。文化学部 FD 小委員会では、このような学内講演会への参加を積極的に呼びかけている。

以上のような「授業アンケート」活用のほかに、文化学部独自の組織的な活動として、昨年度より 1 年次と 2 年次の学生代表と教員からなる「学生代表会議」を行っている。学生代表は、各クラス・ゼミから 1 名ずつ選出され、事前に学生から学部の授業内容や方法に対する意見を集め、会議に報告する。そして、会議で出された学生からの意見を学部の教員全員に伝えることにより、教員の意識改革、授業改善に結びつけるよう試みている。同時に、教員からも学生に対する要望も会議で提示され、学生側の意識改善をうながしている。こうして学生と教員との双方向の交流を進めることで、学生の学習意欲の向上を図れることが期待される。

教員の資質の維持向上に必要なもう一つの柱として、教員相互の授業参観による考え方

や技量に対する評価実施がある。文化学部でも、希望する教員が申し出る形式で、現在数名の教員の授業参観が行われている。コース制導入により、「知識の伝授」だけでなく、「知識の思考と応用」によって学生自身の問題解決能力を養い、最終的に学生の潜在的な能力を引き出すような教育が求められている。今後、教員相互の授業参観を一般化していき、教員の教育水準と改革意識の向上を目指す。